

絵本 Vol.8 いいね!

今回の「いいね!な絵本」は

『にんじん かりかり かじったら』

石津ちひろ 文 / 柴田ケイコ 絵
金の星社



今回のいいね!な絵本は、金の星社『にんじん かりかり かじったら』をご紹介します。オノマトペに彩られた軽快な文章で、リズムよく進んでいくこの絵本。言葉あそびの著書が多数ある石津ちひろさんと、「しろくま」シリーズでおなじみの柴田ケイコさんに、作品の魅力や制作秘話をうかがいました。



石津ちひろさん

柴田ケイコさん

言葉は「空気」、いつも声に出しているものです

今年7月に発売された『にんじん かりかり かじったら』。舌触りのよい文章と、味のある絵が楽しい一冊です。石津さん(以下、石)と柴田さん(以下、柴)の絵本作りは、一体どのようなものだったのでしょうか。



タイトルから、リズムがいいですね。言葉あそびの絵本でしようか?

石 はい、オノマトペを楽しむ絵本です。たとえば「にんじん かりかり かじったら」「かりかり おえかきはじめたよ」というように、同じ音のオノマトペを前後のページで対しています。

柴 石津さんの文章が先に出来上がって、私はそれに絵をつけていったんですが、初めて読んだ時からテンポがいいと感じていました。

石 まあ、ありがとうございます。私は柴田さんのラフを、できたものから少しずつ見せていただきましたよね。次はどんな絵が見られるかと、色がつく前の段階からとても楽しかったです。

柴田さんのラフを、ご覧になって、石津さんが絵にコメントされたり、文章を調整なさることもありましたか?

石 「そうですね、ありました。私は他の本でもいつも、ラフが上がってくると夫や娘に読み聞かせてもらってます。そうすると、「こは文章のリズムがちよっとよくない」とか、「もつと絵に変化があった方がいい」とか、よくわかります。



ので、そうやって気づいたことは何でもお伝えして、整えていきました。この絵本では、しろくまのページがあつたね…。

柴 ああ!しろくまがくるくる回るページですね。ここは本当に助かりました。

石 ふふ笑。私ね、娘がバレエをやっていたものだから、くるくる回ることに結構こだわがあつたんです。最初のラフでは、しろくまの体幹がしっかりしていませんでした。編集の大河平さんにそれをお伝えしました。そうしたら柴田さんは、次のラフでバツと完璧に描き直されて。その時に、力のある絵描きさんだなと感じましたね。

このページは私のお気に入りです。柴 浴衣を着たきつねの絵も、石津さんにもっとシャキッとされている方がいい、とコメントをいただいた。効果線をつけたり…。この本には「次のページでどうなるか」という読み手の期待が常にあると思うので、前後のページの変化をより大きく見せられるように調整しました。



石 本番の絵も、背景の描き方を工夫なさつたものね。柴 そうなんです、キャラクターと背景を別々に描いて。本全体にメリハリを効かせるために、絵が完成してからも背景の色を簡単に入れ替えられる方が、いいと考えて、そうしました。他には、文章にあわせて各キャラクターの表情をゆたかにしたり、同じ言葉が違う意味になる面白さがわかりやすく伝わるようにしたりしたんですが、どれもやっぱり、めくった時の意外性を考へての工夫でしたね。



石津さんの文章には、懐の深さやユーモアを感じます。

言葉の楽しみの原点は?

石 私にとって言葉は「空気」で、いつも声に出しているもの。幼い頃は父と言葉のくりかえしで遊んでいましたし、早口言葉や詩など、ちよつとした文も覚えては口にしていました。そうした記憶が原点ではないでしょうか。

柴 遊ぶことが出発点ですね。石 そうなんです。「オノマトペ」にしても、たとえば雨の音に「しとすと」「ざあざあ」など、日本語では種類がたくさんあつて本当に面白い。面白がっていますね、いつも。あとは、話す時はできればウケる方がいいとも思っています(笑)。

最後に読者へメッセージをお願いします。

石 愉快な絵や言葉で、心がワクワクする絵本です。言葉は自分の血肉になるもの。声に出して読んでみてください。

柴 私もちよつぱり楽しく気軽に親子で読んでほしいです。

左 石津ちひろさん
愛媛県生まれ。早稲田大学仏文科卒業。フランス滞在を経て、絵本作家・詩人・翻訳家。著書に『まさかさかさ』(河出書房新社)、『あしたうちねこがくる』(日本絵本賞、講談社)ほか多数。訳書に「リサとガスパー」シリーズなどがある。

右 柴田ケイコさん
高知県生まれ。奈良芸術短期大学ビジュアルデザインコース卒業。イラストレーター、絵本作家。著書に「めがねこ」(手紙社)、「おいしそうなしろくま」ほかの「しろくま」シリーズ(PHP研究所)などがある。

いいね!な絵本を作った人





『にんじん かりかり かじったら』のお求めは
お近くの書店等にお問い合わせください。

「こらが着地点だな」とイメージしやすかった

おこひらまさお
大河平将朗さん

絵本編集者



石津さんのオノマトペの文章を、柴田さんの絵でどうしても見てみたいと作りました。
結果はイメージ以上で、社内では早くも続編の声が上がっています。
今回の原画は、クレヨンの塗りで微妙な色の変化をもたせたもの。
特に背景色は、中心となる色を定めて印刷色を調整していききました。
プリンティングディレクターと私で話し合う機会も、「こらが着地点だな」と
イメージしやすかったです。難しい原画ほど、図書印刷に頼りたくなります。

いいね! な絵本

を編集した人

大河平将朗さん



金の星社編集部所属、編集者。担当作に『せんろはつづく』(竹下文子・文、鈴木まもる・絵)、『おかあさん ありがとう』(みやにしたつや 作・絵)など多数。

中島康貴さん

プリンティングディレクター

ヒアリングに力を入れて、 イメージの色へ近づけます



この本の色調整には、正直あまり手がかかりませんでした。
というのは、大河平副編集長から印刷色の目安にパーセンテージの数値指定がいただけたからです。
一方でこれできたのは、入稿時にきちんと方向性をすり合わせる事ができたからとも思います。
プリンティングディレクターはお客様のイメージを聞き取り、現場に伝えてよりよく再現させる
仕事です。お客様の思い浮かべるものに極力近づけられるよう、ヒアリングには力を入れています。

いいね! な絵本

を印刷した人

中島康貴さん



図書印刷株式会社所属、プリンティングディレクター。絵本や写真集など、印刷の質が鍵となる印刷物を多く担当。印象に残る色調再現を追求している。

SPECIAL 絵本っていいね!

特・別・企・画

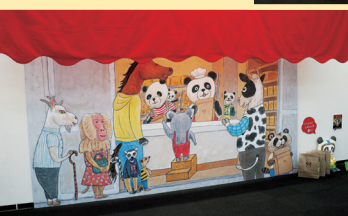
金の星社創業 100周年記念

みるよむあそぶ

金の船・金の星 子どもの本の100年展 に潜入!



いいね!
がいっぱい!



最終ゾーンには巨大汽車や大型迷路など、子どもが絵本の世界に入り込んで遊べる大きな遊具がいっぱい! 汽車には鈴木まもるさんの手によってペイントが加えられ、今回だけの特別な展示となりました。

金の船・金の星子どもの本の100年展が開催されました。図書印刷は本展の展示設置を担当。「絵本っていいね!」編集部が、会場にお邪魔しました。
出迎えたのは、金の星社の創業期を伝えるコーナー。大正8年に創業者・斎藤佐次郎が児童雑誌『金の船』(のちに『金の星』)を刊行したエピソードに始まり、当時の出版物や、野口雨情、芥川龍之介らの直筆書簡など、貴重な資料が盛りだくさんです。さらに進むと、今度は色鮮やかな絵本原画が、「いきもの」「ことば」などのテーマ別に、数え切れないほどの作品が飾られます。いもようこさんやtupera tuperaさんなど、長く愛される人気作が多く「この絵本読んだことある」の連続です。上野動物園ゆかりの『かわいそうなぞう』の原画は本展が初公開でした。

「楽しい」が たっぷり 展覧会 東京・上野の森 美術館で開催

『にんじん かりかり かじったら』を出版した金の星社は、2019年11月1日で100周年を迎えます。それにあたり、7月下旬に上野の森美術館で記念展「みるよむあそぶ」を開催します。

